



Subaru

ニュース754 '21.3.23

男声合唱団

3月19日・21日

昴定例レッスン進めよう！ コロナ予防対策再確認！ 13回コンサート開催にむけて！

□新型コロナウイルスの「緊急事態宣言」の解除後も、感染状況は下げ止まり？で、なお拡大状況にある？予断を許さない毎日が続いています。

3月5日(金)より、ねむかホールを活動の中心に昴はレッスンを再開しました。参加者全員でのレッスンは、ねむかホールではできないため、参加者を1班・2班に分けたレッスンとなり、全員レッスンは別の場所(桃谷教会)を借りてする工夫をしています。

□19日(金)のレッスンは、18:00~20:30、ねむかホールで、第2班のレッスンとして開催されました。

奥村さんの体操・千秋さんのヴォイストレーニングのあと、本並先生の指揮で、**新曲「ブラック ライブズ マター(Black Lives Matter)(BLM)」**(千秋昌弘作詞、森二三作曲)(4部合唱)を新しく作成された譜面の読みから行い、4部合唱に仕上げていきました。

引き続き、5日(金)とほとんど同じメニューで、13回コンサート第1部の全曲を通しの形でレッスンしました。

楽譜を見ながら、本並先生の指揮で、「日々草」「草競馬」「懐かしきケンタッキーのわが家」「白樺」「道」「母なるヴォルガを下りて」を、続いて伊藤副指揮者の指揮で、「U Boji!」「朝露」「歎びのナーダム」を。途中で、室内の換気・通風と休憩を3回実施しました。(1回を連絡・報告事項の時間に充てました。)当日の参加者は全22名。団員20名(T1:6名、T2:5名、BR:5名、BS:4名)でした。ピアノ伴奏は森二三さん。

□3月21日(日) 14:00~17:00 桃谷教会にて、全員レッスンが開催されました。



□はじめに 立川さんの体操、千秋さんのヴォイストレーニングで身体と声を伸ばし、早速、本並先生の指揮で、千秋昌弘作詞・森二三作曲の創作 4 部合唱「終わりの始まり(ノーモアヒバクシャ)」と「ブラックライブズマター」の2曲をピアノ伴奏に助けられながら合唱していきました。(大阪合唱発表会・オリジナル創作の部での昇出演の候補曲)

□休憩と立川さんの連絡報告(3月21日の運営委員会検討事項等)のあと、千秋さんの創作曲「プラットホームから天国へ」の紹介・演奏がありました。



□21日の全員レッスンでは、13回コンサートの第3部演奏予定曲を全曲通して練習しました。伊藤副指揮者の指揮で、「見上げてごらん夜の星を」(アカペラ)と「ゆらゆら春を」(奥村さんのソロ)「死んだ男の残したもの」の3曲を歌い、休憩を入れて、本並先生の指揮で、「方正の青い空」「地雷ではなく花をください」「昇はうたう」「このみち」「6pence」「昇」と6曲を集中力を切らすことなく、懸命に合わせていきました。

□本並先生から、3月の再開レッスンで、13回コンサートで演奏予定の全曲を、楽譜と再度照合しながら、通してレッスンしたことで、4月から次のステップに入っていきますよ！

- ①一つ一つ丁寧に仕上げていくレッスンを行うこと、
- ②また、13回コンサートの編成の見直しと共に、技術委員会や運営委員会で新たに候補に上った曲目を楽譜を取り寄せ、レッスンに入れていきますと説明がありました。(候補曲は連絡事項で)

21日のレッスンの参加者は、団員23名(T1:7名、T2:5名、BR:6名、BS:5名)、全参加25名でした。ピアノ伴奏は森二三さんでした。

□連絡報告事項

3月21日(日)運営委員会が開催されました。検討・決定事項等報告します。

(1)まず、千秋団長より、昇の合唱活動の現状をどう見るか？どうするか、メッセージがありました。

現在昇団員はレッスン参加者27名。休団者はいろんな都合で10名近く。「昇80人構想」を目標に男声の大合唱の醍醐味を味わうことはむづかしい状況にある。どの文化団体も、コロナ感染状況のため、コンサートの開催が困難で、歌の世界も、古典芸能分野も含めてその活動は苦しい状況にある。その中で、昇が13回コンサート開催の実現めざして、頑張っていることの文化的な大切さ、功績は大きいと思う。コロナ対策を万全の体制で行うとともに、30人の人数ではあるが“抜群の昇”をコ

ンサートで表現しましょう！ 団結して頑張ってやっていきましょう。休団者の方々にも連絡を密にして、昴の情報の共有化を図るよう心を砕きましょう！

(2)13回コンサートについて、「企画面」の検討を行いました。

(2-1.)プログラムの構成の「2部:ゲスト」の検討をしています。 候補として、「スーホの白い馬モンゴル楽団」の出演可能性は？モンゴルの音楽と文化、歌と楽器の融合(馬頭琴+ホーミー+ピアノ+女性歌手)、「音登夢」のチェロ・バイオリンの本格派の演奏とはまた異なる「モンゴルの風・ゆったりとした大陸的で伸びやかな音楽演奏を！“



スーホの白い馬モンゴル楽団は2014年に大阪で設立され、その名のきっかけは日本の小学2年生の国語教科書に馬頭琴の由来である「スーホの白い馬」です。メンバーは内モンゴルカルチン、チョウダー、シンアン、シリングルの各連合区出身。担当しているモンゴル音楽は、馬頭琴、トブショル、ホーミー、口弦、モンゴル長調、短調、モンゴル打楽器など。設立以来、日本の各学校や音楽会場で活動し、好評を博している。楽団はモンゴル音楽を発展させ、音楽とモンゴル文化を結合し、モンゴルの強い精神世界の起源を探究しています。モンゴル楽器を他の民族の音楽と融合し、音楽で文化交流を実現させています。馴染みのある楽曲の中でモンゴルの音楽と文化を感じてもらおうと共にモンゴルの情緒をお伝えしたいと思います。

出演者



リュウイ

内モンゴル出身。国立瀋陽音楽大学卒業、大学在学中多数のコンクールで入賞。2009年来日、兵庫教育大学大学院音楽修士課程を修了。青年アーティストとして活躍し、2012年JCM民族楽団とスーホの白い馬モンゴル楽団を創立。同年イベント企画会社リュウリュウプランニングを立ち上げ、京都、大阪、神戸、奈良で音楽教室を主宰している。(歌、笛)



カイホウ

2006年に中国内モンゴル民族大学の音楽学院に入学。2008年4月に、中国東方オーケストラと一緒に中国広東省東莞、湛江、深セン、中山などで公演に参加。2008年11月からモンゴル族独自の「ホーミー」を習い始めて、2009年5月に「蒼天の声」という単独ホーミー公演に参加。2016年6月来日し、スーホの白い馬モンゴル楽団馬頭琴担当として活躍している。



次郎丸 智希

福岡出身。大阪大学文学部卒(音楽学)、同大学院修了(ドイツ文学)、神戸大学大学院人間発達環境学研究科・博士課程修了(人間表現専攻(学術))。第17回万葉の歌音楽祭・大賞受賞。現在、大阪音楽大学講師(ドイツ詩歌演習)、お茶の水女子大学講師(音楽学・ドイツ歌曲)、神戸日協協会理事。ピアニスト、作曲家としても幅広く全国活躍中。



星 千尋

2歳より双子の姉とステージに立つ。NHK児童合唱団、小中高各種合唱団、混声合唱団で活躍。2000年よりゴスペルグループ「SOUL POWERS」を結成し、活動。「NHK KBS おーいニッポン大阪の歌」でメジャーデビュー。2004年には「MALKLA」結成「できるやんか」でデビュー。現在はソロでも活躍。ニューヨークなどパワフルな歌声は日本をベースに世界へと轟き多くの人々を魅了する。

(2-2)プログラムの曲目の変更について

①「草競馬」:現在歌っている4部合唱曲は編曲等が難しく、うまく歌えていない、また歌える状況にない。聴き手にはよく知られているフォスターの曲は、「ケンタッキーの我が家」とともに、2曲はぜひ残したい。石若雅弥編曲の2部合唱メドレー「フォスター名曲集」の中の「草競馬」+「?」に差し替えて、「ケンタッキーの我が家」へとつなげていきたい。

②「コロナ終息後の時期に開催する気分にあふさわしい曲」の追加を！

- ・新春開催なので、「春をうたう」イメージを！例えば、「春よ来い早く来い」(童謡)+「早春譜」+「ウグイス」(前線にも春が来た)を3曲続けて。
- ・核兵器禁止条約の発効、平和を求める! : 「鶴」「鳥の歌」(カザルス作曲・カタロニア民謡)「終わりの始まり(ノーモアヒバクシャ)」
- ・NPO ピンシャール会・故中村 哲氏に捧げる心熱き歌: 「一粒の麦」
- ・「いのちのうた」
- ・以前のミーティングで出されていた曲: 「大都会」、「心の旅」、男声合唱「貧窮問答歌」、男性3部「コーラスアルバム/アカペラ編曲・日本の名曲集」

以上の新しい曲目の検討については、8月昇総会開催までには決める。その間のレッスン時に各曲の楽譜を団員に配布し、歌っていく中で選曲する方法を取りたい。

(3)合唱発表会(大阪南部合発8月1日+LIC大阪合発9月12日)に向けた選曲について

2曲での候補曲(6分30秒)で検討しました。

「U Boj!」(リピート無しで2分、フルで3分)+2曲目?で難航しました。候補曲として、

「母なるヴォルガを下りて」「ウグイス(はるをうたうぐいすよ)」「道」「鶴」(以上ロシア歌曲・民謡)

「地雷ではなく花をください」等から、レッスンで歌って決めます。



「大阪合発・創作発表会」9月23日予定では、「ブラックライブズマター」(2分30秒)「初めの終わり(ノーモアヒバクシャ)」(3分50秒)の2曲または1曲を発表する予定です。

